

選考理由

賞	作品名	氏名	選考理由
大賞	「同じ白さで雪は降りくる」	なかはた ともえ 中畑 智江	作品全体が一貫してレベルが高い。どの一首を取り上げても80点以下となる作品がみられず、素材に柔軟に対応できる安定したうまさがある。歌としての着地点が良く、表現力に個性があり、感性が感じられる。
次席	なにもできないばかり、と言って	いまい しん 今井 心	右肩下がりになった日本の現実に対する体現感がある。日常と非日常のあわいにある、若さゆえの人生の問い。作者の繊細さ、一生懸命さが独自の感性をにじませつつ歌に昇華されている。このような感性で歌が詠めることに対する驚きと、作者の今後の可能性が感じられた。
佳作	レンズ	おおにし くみこ 大西 久美子	言葉の組み立て方が新鮮であり、作者のもどかしさが歌に現れているふくよかな一連であった。意外性に乏しかったものの、カタカナを積極的に取り入れ、気取らず安定した詠いぶりであった。
佳作	分子の集う場所	えだ つばき 江田 つばき	生き生きとした健康的な日常空間を破綻なく歌い上げ、作品としてレベルの高いものがあった。さりげなく作られた感があるものの歌の基礎ができている作者であり、作品として面白く読むことができた。
候補作	絶句	ふなばし こうじ 舟橋 剛二	生活感がリアルで、人の宿業を素直に歌に表現できる力量を持った作者である。詩心も理解しており、壮絶を描くだけではなく、それを自分でどのように受け止めたのかという言葉の切り口にうまさを感じる。
候補作	「桜桃の種」	たかはし ようこ 高橋 陽子	50首を並べると玉石混合の感はあるものの、素材の捕らえ方に面白みが感じられる。
候補作	記憶	すずき けいこ 鈴木 恵子	教育問題を抱えた子どもが多い中で、苦勞しつつ日本の教育の断面を支えた教師の姿が実感を持って迫る。ありふれた言葉ではなく、自分の言葉で詠めていることが評価できる。